せる報告に依れば、部落農業の收入の四割は農業外の收入となつてゐる。（昭和六年中央融和事業協會調査）

農村の部落にはこれらの貧農のほかに農業、漁業等の勞働に從事する多數の農村勞働者がある。都市に於ける土木運輸勞働者（仲仕、荷扱人、人力車夫）等の日傭勞働者と農村勞働者とを合計すれば部落總戸數の一割五分に相當する。（大正十年内務省調査）

都市の部落には皮革（製靴、製革等）化學（動物油脂製造その他）膠物、竹細工製造等の手工業、家内工業、マニュファクチュアの後れた工業經營があり、それ等の部落工業及繊維その他の工業に從事するプロレタリアがある。部落の皮革産業は日本の皮革總生産額の約六割を占めており、皮革勞働者の六割乃至七割は部落民である。だが部落の後れた零細工業及小資本經營の商業は、獨占資本の發展に伴

財團法人 協調會福岡出張所

よて急速な沒落の道を辿りつゝある。これらの中小商工業者の破産は部内の失業者を增加させてゐる。

かくて部落民の殆んど大部分は勞働大衆であり、封建的身分關係による過去と、資本の搾取による現在の二重の鎖縛に縛られてゐるのである。

三、過去の鬪爭の批判

水平社運動は封建的身分關係に反對して市民的、政治的自由を要求する特殊部落民大衆の鬪爭である。一九二二年に全國水平社が結成されるや驚くべき勢で全國各地に組織が擴大され、その最も旺勢を極めた時代には八百に近い支部と七萬人を越ゆる成員等を持つ大衆組織に發展し廣汎なる部落民大衆をその影響下に獲得した。しかるに十年餘を閲した今日においては水平社運動は著しく衰微し、その鬪爭力を弱め、部落民大衆の間に擴られた影響力を保つ

財團法人 協調會福岡出張所